S.O.E. News no.23
ホームページもご覧ください
NPO-SOE.JP
NPO センスオブアース・市民による自然共生パンゲア からのお知らせ
2007.3

地域の人々の願いと連携に支えられる『さくら草まつり』

いたばし
ビオトープ
ネットワーク
学校訪問シリーズ 10

～１年を通じて花を愛する心を育む～
板橋区立若木小学校

３月４日に開かれた第 19 回さくら草まつり

昭和３３年に創立した若木小学校は、来年で５０周年を迎える。たまたま４０年ほど前にこの学校を卒業した筆者の記憶をたどると、当時は正門の前を走る道路は舗装もされておらず、牛車がのんびりと通り過ぎるような場所であった。

その後大きな区画整理がされることもなく月日を重ねてきたようで、学校周辺を走りめぐる道の形は当時とさほど変わっていない。しかし、その当時異様な臭気を振りまいていた醤油工場や化学工場などは姿を消し、代わりに新しいマンションなどが建ち並び、それなりに時の流れを感じる。かろうじて正門近くにある大きなツゲの木が今も健在で、当時を偲ばせてくれた。

この学校は少子化の時勢の流れで、平成 17 年度には若葉小学校との統合という局面も経験した。環境の変わった子供たちはその後どうしているだろうか？　約 540 人の全校児童と向き合う若木小学校のさまざまな取り組みと、それを支える地域との連携について中村幸男校長にお話をお伺いした。

中村幸男校長先生

Q：名刺を拝見しますと『サクラソウ・ニリンソウのある学校』とかかれていますが・・・。

中村校長先生：そうですね、でも現在はそれにもうひとつ『けん玉』を加えてるんです。

Q：けん玉ですか？

中村校長先生：学校統合で２年前若葉小学校からうちに 70 名ほど児童が編入されたんですよ。若葉小学校は『けん玉』活動で有名なところでしたから。これも日本の伝統的な文化ですからね、絶やしてはいけないと思ったんです。

Q：自分たちの学校がなくなって環境が変わることへのケアは？

中村校長先生：統合になる前、一緒に学年で行事を行いました。それにこの『けん玉』活動も大切な要素でしたね。なにしろ若葉小学校の自慢の一つだったわけですから、新しい友達と

心を通わせる媒体になったことは確かだと思います。今では全校にひろがり、学期に一度『けん玉検定』も開いています。今うちの学校には３段の認定者もいるんですよ。

Q：年に一度「さくら草まつり」も開かれるとか？

中村校長先生：今年で19回目になります。これはうちの校庭を使うんですが、地域のさくら草祭協力者と、中台小、志村五小、緑小、中台中、西台中とうちの６校が参加して開催します。各学校で育てたサクラソウの鉢を持ち寄るんですね。全部で2500鉢ほどのサクラソウが校庭いっぱいに飾られるんです。

青健中台支部会長の南雲芳治氏は、長年地元を見守る強力な理解者だ

Q：主催はどこなんですか？

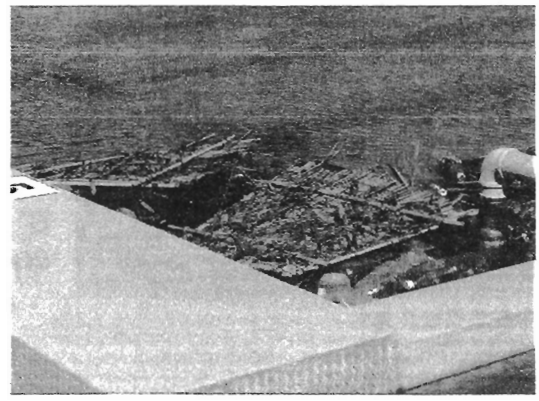
中村校長先生：主催が板橋区町会連合会中台支部、板橋区青少年健全育成中台地区委員会、エコポリス板橋中台地区環境行動委員会、管内の区立児童館（西台・若木・緑が丘）です。地域の結束で継続しているイベントと言えますね。子供たちはほぼ１年を通じてサクラソウを育て、草花を愛する気持ちを培います。自分の名前が書かれた鉢を飾るわけですから、誇らしい気持ちになると思いますよ。

Q：地域との理想的な連携が成功しているひとつの例ですね。最後に今後の抱負をお聞かせください。

中村校長先生：在るものを生かしてこどもたちに確かな生きる力と夢を与えたい。夢の実現のためには知・徳・体が大切ですが、特に、心と感性が大切だと思います。生き物を育てたり学校一杯に、サクラソウを育てたり地域に生きものがたくさんいることが大切ですね。一時的な取り組みでなく、ずっと、続けていく物が大事だと思います。プールからヤゴを救出することやビオトープもそうです。そのためにも、地域の自然を守ることが大切だと思います。」

昨年実施された
「ヤゴ救出作戦」の一こま
約500匹のヤゴを救出した

プールにはすでに今年のヤゴ救出に向けてヨシズ製のいかだが浮かべられていた。トンボはこのような障害物がある場所を選んで産卵する



インタビュー
若木小ビオトープづくりを先導した　原京子先生（５年生担任）

若木小も、学校の周りが開発され、住宅化がすすみ、どうしたら子どもが自然とふれあうところになるかと心配しておりました。そこで、蓮二小や三園小などで見てきた、ビオトープづくりを考えたのです。校舎の裏側にある空き地は、子どもたちに出入り禁止エリア。いろいろ考えて登校門そばのプール横の縦１ｍ横７～８ｍの花壇を改修することになりました。ビオトープの専門家やエコポリスセンターの方々や、職員で作りました。土を掘り下げ、土嚢につめ、ビニールを４重にして板で止め、土嚢を埋め、土をかぶせて浅いところ深いところを作りました。エコポリの方より、植生は元々この土地にあったものを植えることを勧められ移植しました。―カヤツリ草やデンジ草―などです。早速生き物が寄ってくると写真に撮り、廊下に張り出しました。低学年の生活科で、柑橘類のミカンの木などを鉢にしてそばに置き、メジロなどを寄せたり、クスノキで、アオスジアゲハを呼び寄せる努力をしてきました。

花壇の枠が地上１ｍ弱の高さなので、２～３年生に鉢植えのいらない土をビオトープのわきに積み上げてもらい、カエルの通り道を造りました。昨年なんと、この道を通ってカエルが産卵にやってきたんですよ！ ビオトープの水は、１年中雨水です。夏場だけ、校長先生が水道水を補ってくれています。

隣はプール。そこに来たトンボたちのヤゴを２年生の子どもたちが夢中になって救出し、ギンヤンマのヤゴなど５００匹もとれたので、ヤゴをビオトープに入れて成長を観察。各教室で生きたアカムシやイトミミズをエサにしてトンボを育てる。ヤゴは各クラスに配ったほか、他校にもおわけしました。もう４年間続けています。

ビオトープで生きもの観察

学芸会で、『ポット君と仲間たち』というビオトープに来ている生き物と、ビニールの植物ポットを主人公にした劇を創り、学芸会で上演しました。〈ヤゴ・アカトンボ・アカムシ・メダカ・ゲンゴロウ・アメンボ・カエル・オタマジャクシと子どもたち。ゲンゴロウはヤゴやメダカやオタマジャクシを食べないと大きくなれない、アカムシはみんなのフンや水草を食べる、水草はフンのおかげでおおきくなるなど、わかりやすく食物連鎖が語られます。〉これから、鳥なども、子どもたちに観察させたいです。

―　若木小は、伝統的な取り組みをまもりつつ、“新しい自然”を作り出す活動に先生方が日々、創意を重ねていることに驚きました。プールのヤゴの多さは板橋一ではないでしょうか。それだけ地域に自然が残っているともいえるのですが、トンボが仲間を増やせる環境―ビオトープやプールの浮島づくりの工夫と実践―を教職員で創ることに努力を惜しまない学校だからではないでしょうか。―

センスオブアースは、東京都板橋区と沖縄を拠点とするNPO法人です。

www.npo-soe.jp　または　npo-soe.jp　へアクセスしてください。

メンバーコラム

地球温暖化ってこわいの？

「温暖化は、冬暖かくていい。」と言った人がいます。「北海道で米の二期作ができていい。」と言った人もいます。地球温暖化は、自分とどうつながっているのでしょうか？

この冬は、明治に気象観測が始まって以来初めて、東京で初雪が降る前に春一番が吹きました。12月には台風のような嵐がありました。その後もセミが鳴き、ホタルが飛び、ひまわりが咲いたとTVで放映され、春の花が咲き、チョウが舞い、ツツジが咲いています。インコなど南の国の鳥が野生化し、冬越ししています。スキー場には雪が無く、豪雪地帯の新潟では、除雪作業の仕事が無いと言っていました。この異常気象を、どうみたらよいのでしょうか？

先日、アカデミー賞のドキュメンタリーの部門で賞をとった映画『不都合な真実』の中で、ゴア元米副大統領が、資料を示しながら説明しています。

温暖化は、化石燃料を燃やすことによって発生するCO_2が大気中に放出され、地球を覆うことによって太陽熱をため込んで起きる。CO_2の濃度は年々増し、このままいけば今世紀末には、平均気温が3～9度上がる可能性がある。その影響として山の雪や南極・グリーンランドの氷が解け海水面が上昇する。そして海抜の低い土地は海に沈み、多くの難民が出る。大型の台風やハリケーンが発生する。新種のペストや蚊が媒介する疫病が発生する……

ベランダでは、さくらんぼの実をつける桜が早くも満開に（3月4日筆者撮影）

温暖化の原因を作ったのが人間なら、人間の力で防ぐことも出来るかもしれません。1997年に京都議定書でCO_2削減目標が決まりました。また、2月16日から3日間、25カ国の60を超える自治体・団体と国内約50自治体が参加した協議会が京都で開かれ、「京都議定書からは米国、オーストラリアが離脱しているが、世界の都市・州のレベルでは京都議定書を実行しようとしている。米国からは300の都市が参加し、オーストラリアでは80％の自治体が参加し、いま世界800の都市がCO_2削減をめざしている」報告されました。実行するのは私たちです。

2004年の夏、日最高気温平均値が31℃、真夏日は50日以上となりました。100年後の板橋区の夏は日最高気温が35℃、真夏日が120日になると予測されています。

板橋区でも『板橋区地球温暖化防止地域推進計画』が策定されました。京都議定書通り、1990（平成2）年度比で温室効果ガス6%削減することを目標に、2006～2012年度までの板橋区内の「区民」「事業者」「区民団体」「区」が主体となって、いまできることが計画されています。インターネット（http://www.city.itabashi.tokyo.jp/kankyo/）や、区内図書館など各施設でも閲覧ができます。ぜひ、ご覧になってください。

地球を守るために私たち一人ひとりができること（エコライフ）をすすめよう

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町4－8－6（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp　url: www.npo-soe.jp